

活動ノート



9月8日(日)

アカマツ林草刈・間伐

13:00~15:00



◆参加者：迫、林、川上、鎌田、富永、岩尾、榎、松雪、静岡、菊池（潤一、一希、泰雅）、小川R 計13名

◆内容：コナラの間伐と草刈に分かれての作業でした。まずコナラですが、下見した際、正面のみ見て径が15~20センチくらいと踏んでいましたが意外と根本は太くて切ると約30センチも有りました。もともと倒す方向とは逆に重心がかかっていたのですが、根元が予想外に大きかったのと、追い口の入れ方が悪かったので、結局ロープで引き倒すことになってしまい、今後に向けての反省材料となりました。草刈は昔の通路であった場所に以前伐倒した木や枝葉等が有り苦労しながらの作業でしたが、作業が進んで明るい場所が確保できました。菊池親子によるネジキ(径6~7センチ)2本の伐倒もあり枝葉等については、処理ヤードに放り込みましたが、コナラ本体は時間がなく倒した場所に動かないことを確認して置いておきました。

【ふりかえりより】

・今日の間伐は伐倒でなくまさに「引き倒し」になり大変疲れました。(松雪)

9月29日(日)

アカマツ林5ヶ年計画策定

10:00~15:00



◆参加者：迫、中嶋、松雪、川上、静岡、榎、柴戸、岩尾、自然観察センター長 計9名

◆内容：今日は、これまでの活動を振り返り、次期アカマツ林5ヶ年計画について検討しました。(詳細は8頁の「特集」参照)

10月13日(日)

外部との交流in井尻上池

10:00~15:00



◆参加者：富永、鎌田、岩尾、新牛込（寛子、清成、まーくん）、菊池（潤一、泰雅）、柴戸 計9名

◆内容：今日の活動場所は井尻にある上池。ここはかつて溜池として農業に利用されていましたが周囲の宅地化に伴ってその役目

を終えたものです。使われなくなった上池は、その後雑草が生い茂りゴミ捨て場と化していきましたが、そこではクサガメ、黒メダカや貴重な水生昆虫が生息しています。冬にはマガモやコガモが越冬し、アオサギは小魚やザリガニを捕食にやってきます。この市街地に残された貴重な自然を守るため、蓮葉井尻の会(代表富永誠)では定期的に草刈、ゴミ拾い、ヨシやカヤツリグサの伐採を地域の子供やその家族で行っていますが、なかなか人手が足りないのが実情だそうです。そこで森会では「外部との交流」プログラムとしてこの保全作業を応援することにしました。初めに富永さんから今までの経緯や現状、今回の作業の説明があって、午前は池の西側でヨシや雑草を刈り払い、通路に敷き並べました。午後は人数が減ったこともあり、ゴミ拾いをしました。

【ふりかえりより】

・よい風が吹いて気持ちよいひと時でした。(新牛込)
・本物のピオトープでの保全活動で、その存在の意義についても考えさせられました。(岩尾)

10月20日(日)

森のハイキング、花炭づくり準備

9:30~15:30



◆**参加者**：富永、吉田、鎌田、榊、岩尾、宮田（公德、陽佑、啓佑）、川上、林、松雪、静間、中嶋、柴戸、小川R 計15名

◆**内容**：今日は自然観察をしながらのハイキング。虫、鳥、植物とそれぞれに得意な方があちこちで解説をされていました。季節的に花の乏しい時期でしたが、ヤクシソウ、ミスタバコなどが咲いていました。ツルリンドウは午前だったので閉じていました。水の森でシダを見た後はいよいよ急な登りになり、口数も減り気味に。殆ど人が通らないのか、落枝が多く足元が悪かったのですが、皆さん元気に照葉樹林の森を登って行きました。ここではヒメユズリハが目立っていました。ほぼ登り切った辺りで、いよいよ特別観察路に入場。以前、薪炭林として利用されていた照葉樹の里山がそのまま残っているところですが、伐採後に萌芽更新したものが遅くそだっているのに感動しました。タブノキ、コナラ、スダジイ、ノグルミ、アカガシ、リョウブ、ヒメユズリハなどの大木が目立ちました。昼食を芝生広場でとったあと、森会の作業によってクヌギを中心とした落葉広葉樹林を保っているカブ森を歩いて、照葉樹林の林相との違い、森の明るさを実感しながらキャンプ場に向かいました。

花炭づくりの準備は、これまでの特別活動などで作った薪を利用した火熾し。さすが手慣れたもので、すぐに強い火が準備できました。菓子缶の底にヒノキの葉を敷いたところに、炭にしたいものを並べて蒸し焼きにするのですが、どの位の火力でどのくらいの時間がいいのやら。ということで

今日は本番に備えての実験です。思い思い持ち寄ったものを並べて蓋をし火にかけます。何度か使用した缶は密閉性が悪くて火が内部に入ってしまうこともあり、悪戦苦闘でしたが、そこそこ立派な花炭が出来上がり一同感激。来月の本番に向けて、いろんな問題点や準備するものなどが分かってきました。

【ふりかえりより】

・初めてのコースの散策で楽しかった。花炭作りも初めてで面白かった。お天気も良かった。（榊）

11月9日（土）

活動説明会

アカマツ林の幼木調査とかんたん炭焼き（花炭づくり）体験

9：15～15：30



◆**参加者**：柴戸、吉田、富永、鎌田、榊、川上、岩尾、中嶋、小川、加藤、松尾、一般参加6名 計17名

◆**内容**：一般参加者の2名を迎え、まずはセンターでの事前説明を行いその後、アカマツ林調査区（区画6～10）まで移動し、一般参加者と森会会員がペアとなり作業開始です。光を好むアカマツのため、また、調査をやすくするため、カヤなど他の植物を除く作業から始めました。幼木の横に赤い竹串を刺していき最後にその数をカウントしました。パッと見ただけでは見落としそうな小さな幼木を発見すると参加者も関心されていたようでした。

カウントし終えたところで、昨年の本数との比較や、本数が増減する要因について説明しました。午後は3名で残りの調査区（区画1～7）の調査を行いました。すべての区画を調査することができませんでした。



続いての花炭づくりのためにキャンプ場へ移動して昼食。その間に来園者の当日参加が6名集まり、にぎやかになりました。まずは菓子缶にヒノキやウラジロなどの葉を敷きつめます。続いて、竹の輪切りにしたものに木の実などを並べてオブジェを作り、先程の菓子缶に入れフタをしっかりとめし燃え盛るカマドにのせます。すぐに水蒸気を含む重たい煙が出てきましたが、ここでハブニング！かぱっとフタが浮いてきてしまいました。缶のなかのガスが押し上げているようです。今後は針金でしっかりと固定する必要があるようです。かまどの火力は非常に強く維持できましたが、煙が発火することがしばしば。中身が灰になってしまわないよう消火に忙しかったです。炭焼き時間はおよそ30分～45分。煙の色の判断はいまいちわからないままでしたが、花炭そのものの出来は上々。プラスチックパックにそっと入れ、ティッシュを詰めてふんわり固定して持ち帰っていただきました。今回、事前申込み

が少なく残念でしたが当日参加があったことから、花炭づくり自体に人を呼び込む力はあると思われれます。次回の活動説明会に備え、改めて考えていきます。

【ふりかえりより】

・炭のカンを開ける時、皆さんワクワクしてらっしゃったのがうれしかったです。(吉田)

・アカマツの幼木が想像以上に小さかったことが印象的でした。花炭づくりも焼き芋を食べつつ、のんびりした空気の中で行われて楽しかったです。(一般参加者)

11月24日(日)

カプトムシの森除間伐

9:30~15:30



◆参加者：松雪、榊、林、鎌田、岩尾、川内、川上、富永 計8名

◆内容：快晴・無風、気温 12℃という、まさに快適な小春日和ということもあって、参加者は予定時間の9時30分までにほぼ集まりました。ちょうど盛りとなっていたキャンプ場周辺の紅葉を愛でながら10時過ぎにカプトムシの森C地区に到着しました。今日の作業は、来年2月の活動説明会で行う予定のシイタケコマ打ち用のホダ木となるクヌギの伐採、そして特別活動などできれいになりつつあるC地区東屋周辺で藪状を呈している灌木等の除伐がメインです。ホダ木にするクヌギは、整備5カ年計画を念頭に置きながら、モヤシ状になっている直径10~15cmのものを、

C地区入口階段近くで計3本、東屋付近で1本間伐しました。その他、折れかかっているものも2本伐採しました。また、東屋周辺に繁茂していたヤブツバキやネジキ、スタジイ、クス等の灌木類は、下を流れる谷川が見える程度まで除伐しました。その結果、東屋からの視界が一気に広がり、また東屋上部を覆っているユリノキやケヤキの葉がほとんど落ちていることもあって明るい東屋に変身しました。ただ、春以降には葉の繁茂で再び暗くなってしまいそうですので、ユリノキ等の間伐が必要になると思われます。これらの除間伐作業は午前中でほとんど終わり、午後からは葉や枝等の材処理を中心に行いました。また、併せて東屋横の材処理ヤード跡の整地や、新設した処理ヤードの整備を行い、14時半頃に全ての作業を予定通り終了しました。今後も、新5カ年計画に沿っての整備を着実に進めて行きたいと思います。

【ふりかえりより】

・久しぶりの森会、山に来て気持ち良かった。ヤブ払いしすっきりした。(川内)

・C地区端のクヌギ4本を数人で切った。太陽を求めての苦労がわかるような気がした。(林)

12月7日(土)

アカマツ林整備と調査

9:30~15:00



◆参加者：迫、榊、川内、富永、

菊池、中嶋、柴戸、岩尾、静岡計9名

◆内容：今日は、アカマツ林の斜面の上部から、草刈と松葉掻きをしました。じゅうたんのよう敷き詰められた松葉を遊歩道までおろして堆肥ヤードまで運びました。草刈作業中には実生の幼木を傷つけないよう気を使いました。野ばらのとげで痛い思いもさせられました。階段部分の松葉もきれいに取除いたので、歩きやすくなりました。斜面の草がなくなると、リョウブ、山桜等の落葉樹が目につくようになり実生の幼木の成長の為に除伐の必要性を感じました。一方、アカマツ林成木調査は、2箇所に設けた調査区画の成木を対象に、毎年胸高直径や樹高、樹勢を調査しています。今年は、7月のアカマツ林全体の成木調査の結果と従来から継続して調査を行っている2つの調査区画の成木との照合作業を行いました。B地区側の調査区画では、マツ枯れのため伐採されたものが多く、20M×20Mの区画内に5本しか生存が確認できませんでした。A地区側の調査区画は斜面での作業で大変でしたが、比較的多くの本数が残っており、生長も確認できました。午後は前回の幼木調査の残りの区画の調査を行いました。幼木調査も継続して調査していますが、区画内には腰高あたりまで成長した幼木も多数みられるようになり、1・2年生前後の幼木を見つけるのに苦労しました。

【ふりかえりより】

・調査は若者と、数理に明るいシニアの方で円滑に進みました。もう少し若者会員がふえるといいなと思います。(柴戸)